

## 第3学年 社会科学習指導案

日 時：平成17年10月5日（木）

学 級：3年1組 男子18名 女子19名 計37名

1、 単元名 「地方の自治と政治」

2、 単元設定の理由

### (1) 生徒観

社会科に対する興味・関心の高い生徒がおり、自分の身の回りの出来事やニュースが授業の中で話題になることも多い。一方、発言は特定の生徒に限られる傾向があり、社会科に抵抗感を感じる生徒もやや見られる。

社会事象への関心・意欲・態度については、新聞やテレビのニュースに関心を持ち、公民の学習を現実の社会の出来事として捉えようとする生徒は少ないが、社会のしくみに興味を持ち、おおむね意欲的に学習に取り組んでいる。

社会的思考判断能力については、教科書の語句を覚えることに終始してしまい、身近な生活に結び付けて考えることを苦手としている生徒が多い。

資料活用の技能・表現については、基本的な図表の読み取りは概ね達成できているが、適切な図表に表現することを苦手とする生徒が多く、また、自分から資料を見つけ出すとすることは少ない。

社会的事象についての知識・理解については、教科書の暗記中心の学習になっており、社会全体の横断的な理解にはいたっていない面が見受けられる。

### (2) 教材観

マスコミなどに大きく取り上げられるのは国政についてのニュースが多いが、地方公共団体の政治は身近で、自分の生活と結びつけて考えることが比較的容易である。また、地方の政治のしくみは、これまで学習してきた国の政治のしくみとはやや趣を異にし、そこに住む住民の参加がより生かされる制度となっている。それゆえに、自分たちの身近な地方公共団体の政治のしくみについての理解を深め、地方公共団体の一員として政治に参加していこうという姿勢を育てることが必要になってくると考えられる。一方、地方自治という言葉の反面、財政面では国からの交付金や補助金の割合が高く、行財政改革などを目指して市町村の合併が進められている。生徒たちにとって身近な行政サービスが、実は地方の自主財源だけではまかないきれない実態となっているという事実にもふれさせ、行財政の課題を自分たちの課題として捉えさせたいと考える。

### (3) 指導観

地方公共団体の政治は生徒たちにとって身近であり、水道やゴミ処理、教育などの行政サービスと結びついている。そのため、教科書の記述や資料を、身近で具体的な社会事象の一つとして捉えることが比較的容易である。断片的、抽象的な語句の暗記に陥りがちな生徒に対し、具体的で身近な事実を提示し、興味関心を喚起したい。そのために、課題解決型の学習という手法を用いて生徒の興味関心と、思考を深めるような学習を展開したい。そして課題の解決を図る中で、生徒の思考を引き出し、個に応じる場面を設定したいと考える。また、矢巾町の政治を教材として取り上げ、自分の身近な生活と矢巾町の行政が結びついていることを実感させ、住民としての意識を育て、まちづくりや課題解決に向けた思考を深めさせたいと考える。

単元末のコース別学習では、教師主導型ではない学習形態で学習を展開し、生徒が達成度ごとに個に応じた学習を展開できるよう支援したい。

### 3、単元目標

- (1) 地方身近な生活との関わりの中で、地方行政に参加しようとする態度を育てる。  
【関心・意欲・態度】
- (2) 地方自治の課題について自分なりの解決策を考えることができる。【思考・判断】
- (3) 統計資料やや広報誌などを活用し、地方自治の意味と役割について理解する。  
【資料活用】
- (4) 地方自治の基本的な考え方としくみについて理解する。【知識・理解】

### 4、指導計画

わたしたちと地方自治 …… 1時間  
地方分権と住民参加……………1時間(本時)  
地域づくり……………0.5時間  
まちづくりを調べる……………0.5時間  
わたしたちと日本の政治……1時間  
単元テスト……………0.5時間  
単元末コース別学習……………1.5時間

### 5、評価基準

「別紙参照」

## 6、本時について

### (1) 主題 「地方分権と住民参加」

### (2) 目標

- ・ 地方財政が抱える課題に気づき、地方分権が進められる背景について理解する。
- ・ 地方公共団体の一員として、課題解決に向けて努力する姿勢を養う。

### (3) 指導の構想

生徒にとって身近な矢巾町の財政を教材に、地方財政が抱える課題や地方分権の問題に迫りたいと考える。またその課題が、教育など身近な行政サービスを実施するためには克服していかなければならないものであり、行政サービスの受け手としての自覚を持たせ、中学生である自分たちの問題であると捉えさせたいと考える。矢巾町の財政を分析するだけでなく、他の地方公共団体と比較する場面などを設定しながら、公民的分野の目標である「様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察」したり、自分たちの身近な生活に結び付けて考えさせ、「事実を正確に捉え、公正に判断する」場面を工夫したい。

### (4) 具体の評価基準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手立て
関心 意欲 態度	矢巾町の財政の課題に関心を持ち、自分達の問題として解決しようとすることができる。	矢巾町の財政の課題に関心を持つことができる。	身近な資料を活用し、関心を持てるよう支援する。
思考 判断	矢巾町の財政再建にむけて自分たちにできることを考え、発表することができる。	矢巾町の財政再建に向けて自分たちにできることを考えることができる。	小グループでの討議などを取り入れ、考えを持てるよう支援する。
資料活用 の能力	矢巾町の財政上の課題を読み取り、指摘することができる。	矢巾町の財政上の課題を読み取ることができる。	資料の読み取りの方法を確認する場面を設け、支援する。

## 7、本時の展開

段階	学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考 = 評価
導入 5分	1、前時の想起 2、学習課題の設定	1、前時の学習内容の確認 2、学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストを解答し、本時につなげるような補説を加える。</li> <li>・ H15 年度の矢巾町の歳出額について予想させる。</li> <li>・ 歳出額と歳入額について知らせ、それぞれの町民 1 人あたりの金額がいくらになるのか知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短時間で行う。</li> </ul> 資料：H15 年度矢巾町決算
なぜ、10万円の町税負担で41万円の行政サービスが受けられるのだろうか。				
展開 25分	3、予想 4、学習方法の確認 5、事実の追究 1 6、課題の検証	3、課題に対する予想を立てる。 4、追究方法と内容を確認する。 5、「平成 15 年度矢巾町決算」について追究する。 6、課題の解決を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「補助金」「借金」「事業による収入」など自由発言をまとめる。</li> <li>・ 歳出の内訳について学習する。</li> <li>・ 歳入の内訳とその意味について学習する。</li> <li>・ 自主財源と依存財源の割合に気づかせる。</li> <li>・ 地方交付税の減少、今後の町税収入の予測などについてふれる。</li> <li>・ 町債残高の増加の主要な原因と矢巾町の今後の主要課題についてふれる。</li> </ul>	学習シート  資料：H15 年度矢巾町の歳出と歳入  資料：主要な町財政指標の推移
終結 20分	7、認識の統合 8、次時の予告	7、認識の統合を図る。 8、次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢巾町の行財政改革の方策について考えさせる。</li> <li>・ 「矢巾町の財政再建のために自分たちができること」について考えさせる。</li> <li>・ 「地方分権」の流れについてふれる。</li> </ul>	自分の考えが持てたか。 発表できたか。 資料：矢巾町自立への方策